

「あいさつ」から始まる札幌医大の「元気」



山下敏彦 理事長・学長

札幌医科大学では、「UI推進プロジェクト」の一環として「あいさつ運動」を展開しています。手軽で身近なコミュニケーションツールである挨拶については、皆さんも日常的に取り組まれているものと思いますが、学内では明朗快活というには幾分遠いように感じています。果たして、学生は日常の挨拶をどのように考え実践しているのか??教職員とは円滑にコミュニケーションが取れているのか??コーディネーター役の杉村教授、大学の元気印!各学部学年代表の皆さんで実施した座談会(R6.7.22 実施)の様子を発信します。



杉村政樹 教授

(医療人育成センター教育開発研究部門)



作業療法学科2年
武藤 朱香さん



作業療法学科3年
高橋 泰輝さん



理学療法学科3年
山下 愛未さん



医学科6年
倉部 幸治さん



作業療法学科1年
松川 晶子さん



理学療法学科3年
酒井 啓吾さん



医学科2年
田中 優奈さん



看護学科1年
鷺坂 菜祐さん



医学科4年
江屋 一毅さん



理学療法学科2年
橋本 蓮さん



作業療法学科3年
青木 もなみさん

参加学生の皆さん

まずは自己紹介から

杉村 本日は山下学長と学生が直接対話をする機会を作ってみようということで学年代表の皆さんに集まっていただきました。学年代表全員の参加は叶いませんでしたが、参加の皆さんが思っていることを自由に発言していただき、意見交換を通じて今後の大学運営に役立てていきたいと思っています。

学長 普段は学生と接する機会は多くはないのですが、先日学校祭で模擬店に足を運び「学長一っ！！」と多くの学生から元気な声掛けをもらったことがきっかけで、ざっくばらんに打ち解けながら面談できる場を設けられたらと思っていました。今日の機会をととても楽しみにしていましたので、どうぞよろしくをお願いします。

杉村 それでは皆さんから自己紹介をお願いします。

倉部 本日はこのような機会を設けていただきありがとうございます。医学部医学科5年の倉部幸治です。出身高校は大阪の興國高校で、男子バスケットボール部に所属しています。

酒井 保健医療学部理学療法学科3年の酒井啓吾です。出身高校は北見北斗高校です。「POPS研究会」という軽音サークルの部長を務めており、学祭でもステージ発表しました。

鷺坂 保健医療学部看護学科1年の鷺坂茉祐です。出身高校は札幌南高校で、弓道部に所属しています。高校時代から弓道を続け、ずっと勉強か弓道しかしていないような生活を送っています。

高橋 保健医療学部作業療法学科3年の高橋泰輝です。出身高校は札幌藻岩高校で、男子バスケットボール部に所属しています。先日の大会で膝前十字靭帯を断裂してしまい、今はリハビリ中です。

江屋 医学部医学科4年の江屋一叡です。出身高校は札幌南高校で、準硬式野球部とハンドボール部に所属しています。来週から本州で東日本医科学学生総合体育大会があり、両競技とも頑張ってきます。

山下 保健医療学部理学療法学科3年の山下愛未です。出身高校は北見北斗高校で、男子バスケットボール部でマネージャーをしています。趣味は映画観賞です。

武藤 保健医療学部理学作業療法学科2年の武藤朱香です。出身高校は札幌南高校で、部活は室内楽合奏団でバイオリンをやっています。趣味はキャンプと旅行です。

青木 保健医療学部作業療法学科3年の青木もなみです。出身高校は札幌北高校で、バトミントン部に所属しています。映画が好きで、先日公開された「キングダム」の4作目を昨日観てきました。個人的には1作目が一番好きです。

田中 医学部医学科2年の田中優奈です。出身高校は札幌月寒高校で、美術部に所属しています。ラグビーが好きで、先日は札幌で開催された日本対イタリア戦を観戦してきました。

橋本 保健医療学部理学療法学科2年の橋本董です。出身高校は埼玉県の春日部共栄高校で、スキー部に所属しています。趣味はランニングです。

松川 保健医療学部作業療法学科1年の松川晶子です。出身高校は札幌南高校です。社会人を経てから2度目の大学生活になります。趣味は映画鑑賞で特に洋画が好きです。



Z世代の挨拶事情は？

杉村 皆さんは1990年代後半から2010年あたりに生まれた“Z世代”と呼ばれる人たちです。Z世代の特徴としては、スマホネイティブ、SNSネイティブ、多様性を自然に受け入れる、自分らしさを大切に、リアリストな一面、目的や意味を重視、安定志向、ワークライフバランス重視、ストイックな上下関係のある場所に所属した経験がないなどといったことが挙げられるようです。そこで、皆さんのようなZ世代の人たちにとっての挨拶事情について聞いてみようということになりました。我々世代の一般論では「挨拶ができないような人間は〇〇だ!!」と考える人が少なくないのですが、その一方でZ世代の中には挨拶に苦労している人が多いともいわれています。そんなことで今日は皆さんとこの挨拶について話ができたらと思っています。

学長 挨拶をすること自体は世代という問題ではないという気持ちもあります。現在、私が発案した「あいさつプロジェクト」というポスターを学内に掲示していますが、用務で他大学を訪問した際、私と面識がなくても「こんにちは」と挨拶されることが意外に多いのです。でも当大学の場合は面識の有無によらず挨拶する人は少なく、何か気風みたいなことがあるのかなと思い、それを変えようと「あいさつプロジェクト」をスタートしたのです。



江屋 僕は挨拶に抵抗はないですが、確かに大学内は挨拶をするという雰囲気をあまり感じないですね。先日、学生に「あいさつ」運動についてアンケート調査を行ったのですが、回答の中には小・中学校では先生が朝、玄関に立って挨拶したりして、すごく挨拶をする雰囲気があったので、大学でも取り入れてみたらという意見がありました。

高橋 僕も挨拶には抵抗感なく、もちろん部活の先輩や先生にも挨拶はします。挨拶をしないというのは高校生くらいまでは強制的な印象が大きいのですが、大学に来ると自由さがあるので、特に挨拶しなくてもいいのではと考える人もいるような気がします。

杉村 学生ではなく、逆に大学の教職員サイドは挨拶をしているのでしょうか。小・中学校だと先生から「おはよう!」とか挨拶しますよね。

酒井 教授や職員の方には挨拶のしづらさを感じたことはあります。教職員の方々も僕たちに気づかずスタスタ歩いていくケースも少なくないです。ただ3年生になってお互いに顔を覚えるようになってきて挨拶しやすくなってきたと感じることもあります。

田中 そうですね、顔を覚えている先生は挨拶しやすいです。最近、解剖学実習があったばかりなので、その先生とはよく挨拶をします。

杉村 対面以外の場合はどうでしょうか？作成したレポートをメールで送る場合もあると思いますが、メールの挨拶文とかは正しく書いていますか？意外に困っているという話を耳にすることがあります。

青木 3年になりゼミの配属も決まり始め、先生に直接メールをする機会も増えてきましたが、2年の時に一度指導を受け、最初に先生の名前を書いてから本文を始め、最後に自分の学生番号と名前を書く形を教してもらいました。

松川 私は社会人を長年経験していることもあり、お作法に染まり「お世話になっています」から書き出しているのですが、どこか学生らしからぬメール文になってしまうこともあります。

(次頁に続く)

(前頁続き)

鷺坂 高校時代に先生宛のメールで失礼がないよう調べていたことと、入学してからメールの書き方のオリエンテーションを受けたので、それなりに勉強したつもりですが、メールやLINEは文章だけで相手の表情や感情が汲み取れないこともあります。良い人間関係を構築したいという思いもあるので、なるべくメールでも挨拶文をきちんと書くようにしています。

学長 学生同士なら用件だけという内容でも良いと思いますが、先輩や目上の人、指導者にはやはり挨拶は必要ですね。教職員、学生の区別なく、挨拶をしやすくなる雰囲気づくりのアイデアがあれば教えてください。

山下 まず目が合わないと挨拶がしづらい感じがします。教職員の方々にも目を合わせてほしいと思います。

橋本 小さな頃に私は人見知りかひどく、挨拶がきちんとできないことを親に相談すると「いつか自分の身に何か困ったことが起きた時、周りの人に普段から挨拶をしておくとならず助けてくれる人がいる」という話をされ、挨拶の重要性を知りました。挨拶をコミュニケーションのツールのひとつと考えて大切にすれば、きっと雰囲気を変えていけるような気がします。

杉村 橋本さんの親御さんのように、子供に対してなぜ挨拶が重要なのかを上手に説明するというのも大切ですね。大変参考になりました。

学長 附属病院の方でも、来院者から医師が挨拶しないという苦情を受けることがありますね。

杉村 そうですね。皆さんからの意見も踏まえ、教職員も含めて挨拶の大切さを認識しなくてはいけないかもしれません。



学生と教員の距離感を縮めるには

学長 挨拶に加えてコミュニケーションの実際ということで、皆さんは担任の先生とどのくらい接点がありますか。学科・学年毎に配置する学生担当教員、いわゆる“学担”とは意外に接点が少ないのかもしれないと思うのですが。

倉部 少し距離感がありますが、出席とテストに関して相談した時に親身に対応いただいたことがあります。

江屋 私が学年代表ということもあり、年に何度か会議で接点があるくらいで、日常的にお会いするということはないです。何か直接お話しできる機会がもう少しあればと思っています。

田中 私も同様に年に1、2回お会いする程度ですが、昨年、教授の顔ぶれが大きく変わったときに随分力になってもらったことがありました。

学長 学担の立場でもまだまだ学生との距離感があるのかもしれませんが、保健医療学部の学生の皆さんはどうでしょうか？教員は親身になって相談に乗ってくれますか。

酒井 作業療法学科では1年生が入学してくると教員も含めた歓迎会をやっているのを耳にしたことがあります。僕が所属する理学療法学科はそういうイベントはなかったので、羨ましいと思いました。

高橋 どういう流れで作業療法学科の歓迎会が始まったのかは分かりませんが、他の学部や学科でもできたら良いと思います。3年生が中心になって企画するようになっており、今回は僕と青木さんが中心になって企画しましたが、縦のつながりを意識することと教員と学生との距離を縮めること、このような場でコミュニケーションを深める経験を将来に活かすことが目的と先輩方から伺っています。昨年はコロナ禍でオンライン開催でしたが、今回は50~60人くらい集まりリアルに開催できて、先生方とも学生同士でも親しくなれる良い機会を設けることができたと感じました。

(次頁に続く)

(前頁続き)

松川 私はもともと他大学の文学部を出ているので、作業療法学科に入学してからはとてもアットホームで先生達が親身になって手厚く対応してくれるので驚いています。面談も毎月ありますし、こんなにも面倒見てもらえるということ、ありがたく思っています。

学長 看護学科はどうですか。

鷺坂 先日、実技テストがありました。テストに向けた先生達との演習も充実していて専門的なことを早くから学べることが楽しく、大変勉強になっています。

学長 保健医療学部の教育内容はすごく良いと思います。医学部だと各講座単位で教え方もバラバラで統一感がなく、医学部と保健医療学部の成り立ちからの違いが出ている部分もありそうですね。

杉村 医学部は学生数が多く100人ずつの医師養成専門課程になるのでハンドリングが難しい部分もあるのは確かです。今、保健医療学部も医学部も令和8年度に向けてカリキュラム改定を計画中です。教え方の統一性も今回のテーマのひとつなので対応していければと思っています。

学長 皆さんにはまだ馴染みがないかもしれませんが、大学にはFD（ファカルティ・ディベロップメント）という取組があり、教員が授業内容や方法を改善し向上させるためのシステムがあります。杉村教授が主導しており、教員も日頃の教学のことも含めて一生懸命勉強をしているところです。今日の皆さんの話を参考に、さらに意識改革をしていくことが重要だと感じました。

あっという間に終了時間となってしまいました。今回は学年代表が全員集まることは難しかったようですが、次回は全員が集まると良いですね。本日はありがとうございました。



(写真上/参加者記念撮影、写真下/終了後の様子)